

誇りある
皆の故郷

浅間台



平成24年度

5月号

学校・家庭・地域が一体となった教育の推進



文武両道と小中一貫教育目標

校長 豊島 呈次

昨年度の3月「感謝の会」に来賓としてお見えになられた、本校の外部評価者委員長である日本体育大学名誉教授成田國英先生が、「文武両道」の話をされました。その内容は、北島康介選手の話でした。大学で成田先生の講義をいつもきちんと聴いている北島選手が「先生、授業をしばらく休ませて下さい」と成田先生に申し出たそうです。訳を聞くと『オリンピックの水泳強化のために、暫く海外の高地トレーニングに行く』ということだったそうです。厳格な成田先生は、北島選手に、海外トレーニング中でもレポートの宿題を出したそうです。北島選手は、海外での厳しいトレーニングにもかかわらず、レポートを期日までに約束通り提出し、そしてオリンピックで金メダルを獲得したそうです。北島選手のように、勉学も運動も両立させること即ち「文武両道」ということを忘れないで下さい。という内容でした。私は、きちんと理由を報告をして約束を守った節度ある北島選手と、北島選手を信頼して今やっておかなければならないレポートの宿題を出された成田先生の人柄がとても素晴らしく思いました。

「文武両道」はこのように「勉学」と「運動」を両立させることです。学習したことを日常生活に活用できる力、相手に分かりやすく伝える言語能力、運動をすることで得られる技術や体力、を向上させること、さらに「心」を大事にすることも忘れないで下さい。ここで言う「心」とは、時には我慢をして人を許し、時には弱い立場の人を生かして、共に調和して生きようとする意識のことです。3. 11の東日本大震災時の混乱期に見せた日本人の助け合いの精神と誠実な態度は海外からも高い評価を受けました。このような「心」はもともと日本人の誰もがもっているものです。しかし最近の日本では、相手の気持ちを考えずに、我が身の利益だけを優先し、我が儘を言う日本人が増えて、トラブルも見られるようになりました。このような環境は、子ども達の成長にも悪影響を及ぼすと懸念されます。本校の子ども達にも「やるべきことはやる」「相手に分かるように説明する」「共に助け合う」意識をしっかりと身につけさせたいと思います。

さて、今年度の浅間台小学校は、「小中一貫教育の東海中グループ」と教育目標を同一にし、小中一貫教育連携型モデル校となっています。その中で「論理的に考える力」と「礼節を重んじる態度の形成」を重点に置いて、2年間の研究に取り組んでいきます。「論理的に考える力」とは、子ども達が学んでいる教科等で分からないことに対して、学校で学んだ基礎・基本の知識や技能・言語能力を生かして論理的に解決する力のことです。また、「礼節を重んじる態度の形成」とは、自らを律しつつ、他人とともに協調し、相手を思いやる礼儀作法を習得して公共の精神や社会の一員としての自覚と責任などの態度を身に付けることです。豊かな人間性・社会性の基礎を習得させるために、市民科を中心として、正しい言葉遣いや節度ある生活習慣を育てていきたいと思っています。

保護者・地域の皆様には、学校の取り組みをご理解頂き、ご協力をお願い致します。

* 本校のホームページはただ今リニューアルの作業に入っております。今暫くお待ち下さい。

* ブログ（浅間台小通信）は現在も引き続き学校情報を掲載していますので是非ご覧下さい。